

「平成 30 年度大川ダム管内維持管理他工事の安全施工について」

平成 30 年度大川ダム管内維持管理他工事

株式会社 共立土建

○現場代理人 佐竹 直人

管理技術者 佐竹 直人

1. はじめに

本工事は、阿賀川河川事務所大川ダム管理支所管内の維持管理を目的とした工事です。

本報告では、同管内に位置する南会津郡下郷町の湯野上地内の崩落した法面の保護工事にあたっての安全対策またはその取組について報告するものです。

2. 工事概要

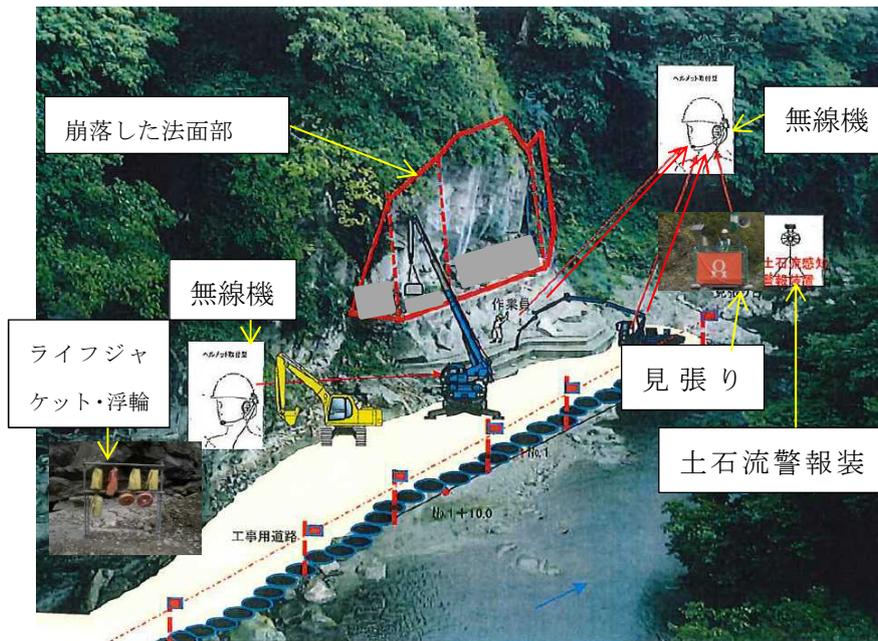
工事場所 : 大川ダム管理支所管内※論文内の施工箇所は、南会津郡下郷町湯野上地内

工 期 : 平成 30 年 4 月 1 日 から
平成 31 年 3 月 31 日 まで

工事内容 : 河川維持 1 式

| | | | |
|---------|----------------|---------------------|--------------------|
| 護岸工 | 自立式残存型砕工 | ブロック (支給品) 運搬・据付け標準 | 40 個 |
| | | ブロック (支給品) 運搬・据付け半割 | 2 個 |
| | 裏込めコンクリート工 | | 438 m ³ |
| | 補修用その他用途コンクリート | | 134 m ³ |
| 仮設工 | 工事用道路工 | | 1 式 |
| 仮橋・仮栈橋工 | 仮橋上部 | | 1 式 |
| 土留・仮締切工 | 締切盛土 | | 1 式 |
| | | | 1 式 |
| ヒューム管 | | | 1 式 |

【位置図】



3. 安全管理

本工事は崩落した法面部に残存型砕鏝ブロックを設置し護岸を行う

4. まとめ

本工事は、県道部分から仮設の工事用道路を整備し崩落現場の既設のコンクリート基礎に残存型砕ブロックを積み上げて裏込めコンクリートを打設する工事で主にバックホー、クローラクレーンにて仮設の工事用道路を、ラフタークレーン、ポンプ車、ミキサー車にて

ブロック部分の施工を行った。

- ① 工事用道路の路肩には、随所に 1 t 土嚢を用いて道路幅を確保すると共に大型の車両が通行する際の路肩の強化に努めた。
- ② 工事用道路整備後に路肩に転落防止策を設けさらに路肩注意ののぼり旗を設置しさらなる注意を促した。
- ③ 架空線が通っている場所では高さ制限とのぼり旗を設けて公衆災害防止に努めた。
- ④ 崩壊した法面部分での作業では、スマートフォンにて地震警報の情報を得ながら、現場付近に土石流警報装置を設置した見張り台を設け作業時は専任で見張り人を配置し常に法面の異変に気を配り万が一異常が発見された場合は複数の作業員が着用している無線機を通じて連絡を取り合った。また、毎日の始業前と終業時に点検を行い法面部の異常の発見に努めた。
- ⑤ 付近に阿賀川の本流が流れており上流部に昭和電工の放流口が有る為大雨等での増水を考え現場付近に N E T I S 登録のウェザーチェックを設置し悪天候時の雨量と河川の水位の確認をし、現場に設置した吹き流しを使い目視にて風速を確認しながらクレーン等での玉掛け作業を行った。
- ⑥ 川岸での作業の為必要に応じてライフジャケットを用意した。万が一作業員が川に転落した際に対処できるように浮き輪を用意し、さらに水難事故防止の救助訓練を安全教育訓練の課題に取り入れて行った。
- ⑦ ブロック設置、生コン打設作業時に転落防止策を設置し安全帯を着用しながら作業中の転落事故防止に努めた。
- ⑧ 法面付近での作業時には常に誘導員を専任で配置し見張り台の監視員とも連絡を取り合いながらクレーン作業、ポンプ作業を円滑かつ安全に行えるよう努めた。
- ⑨ 近くの県道と接続している工事用道路の出入り口付近にも誘導員を配置し一般車両や歩行者との接触事故防止にも努めた。また、雨天時等で仮設の敷鉄板が滑り易くなっているよう場合も誘導員を配置しさらに徐行での通行を促した。
- ⑩ 施工時期が 12 月に入り路面が凍結しているような場合は、早めに現場に行き仮設の

敷鉄板や舗装路面に塩化カルシウムを散布し車両のスリップ事故防止に努めた。

以上の様な対策を立て実行し皆と協力い合いながら、安全に作業を進めることが出来た。